



地域未来牽引企業

自社紹介

- ・有限会社 山藤運輸
- ・所在地:宮城県本吉郡南三陸町志津川
- ・設立:1988年8月 ・車両保有台数:50台 ・社員数:54名

運送事業

- ＞宅配便/冷蔵冷凍輸送
- ＞建設関連輸送
- ＞廃棄物輸送
- ＞引越し輸送
- ＞雑貨便輸送
- ＞給食配送事業

環境事業

- ＞バイオガス事業
- ＞木質ペレット事業
- ＞農業事業



山藤運輸の経営理念とコーポレートスローガン

コーポレートスローガン
想いを運ぶ 未来につなぐ

ミッション

（会社の存在意義）

**人々の生業と豊かな暮らしを支え、持続可能な社会の実現に
物流を通じて貢献し、地域と共に成長し続けます。**

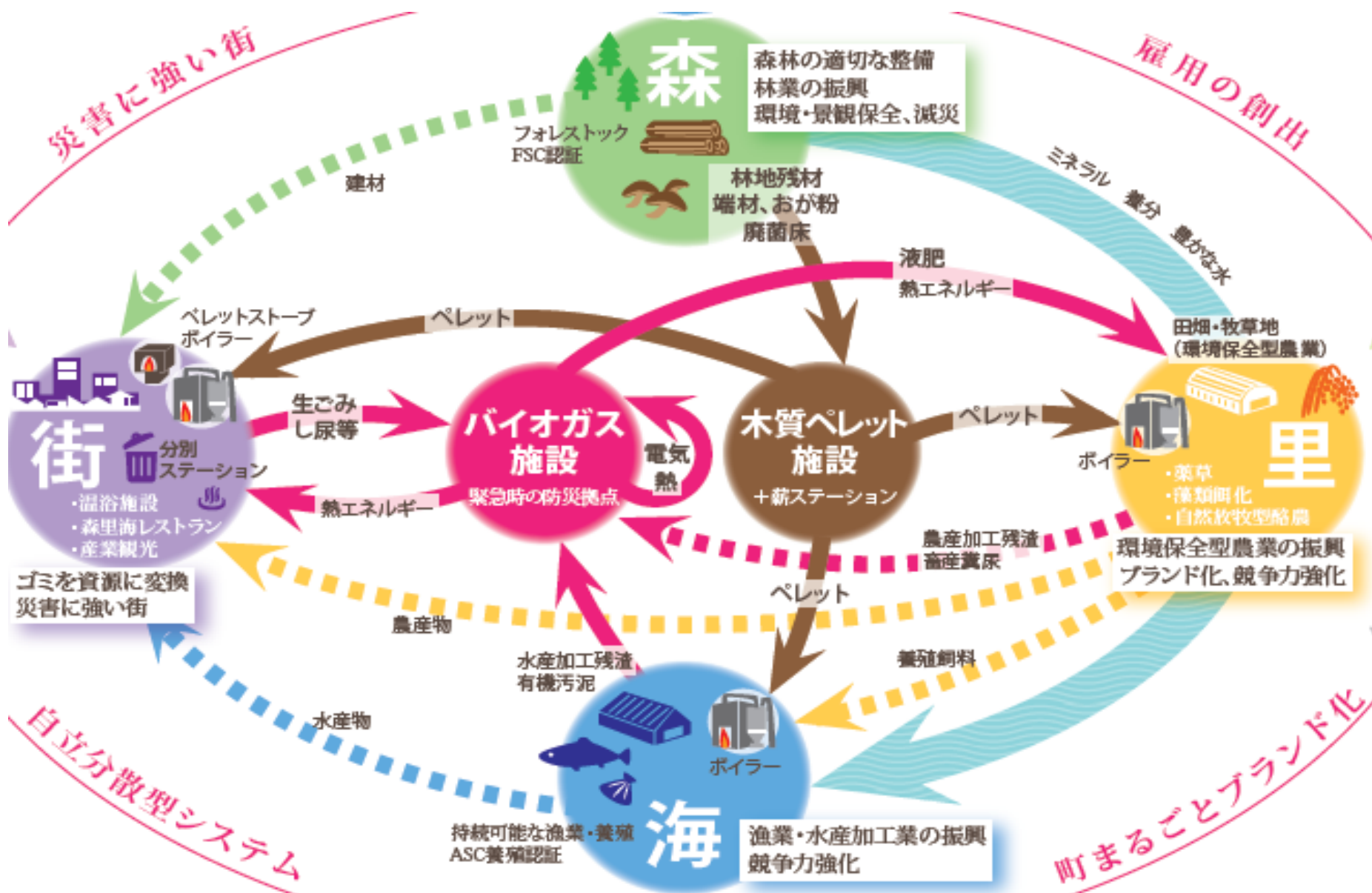
ビジョン

（目指すべき将来像）

- ① **社員みんなが笑顔**で誇りをもっていきいきと働き、成長できる企業を目指します。
- ② **安全安心のサービス**を提供し、**お客様のベストパートナー**を目指します。
- ③ **物流を軸にサービス革新に挑戦**し、新たな産業の創出を目指します。
- ④ **資源循環の輪をつなぎ、持続可能な未来**の実現を目指します。

南三陸町のビジョン 森里海ひと いのちめぐるまち南三陸

南三陸町バイオマス産業都市構想



環境事業課のこれまでの取り組み

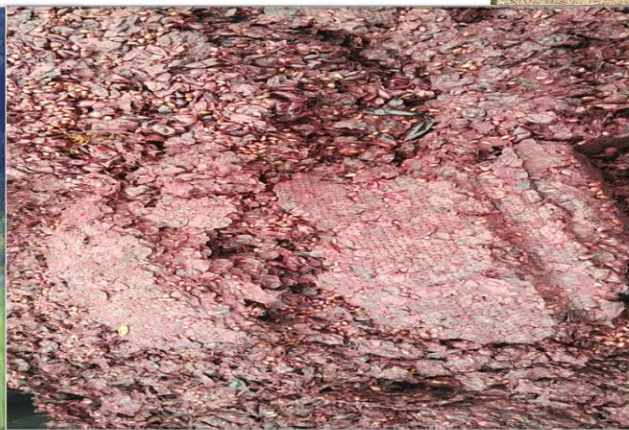


- バイオマス関連事業
 - 南三陸BIOへの原料の運搬
 - 液肥運搬散布事業
- 農業関連事業
 - 耕起、畔塗等の農業補助業務
 - 耕作放棄地の水稻試験栽培
 - めぐりん米栽培
- 教育関連活動
 - 町内小中学校への出前授業
 - スタディーツアー受入れのプログラム担当



協力隊(農業活性化専門委員)のこれまでの取り組み

- 地域未利用資源や液肥を活用した農作物等のブランド化推進
 - 地域の未利用資源活用(牡蠣殻・わかめ茎、ワインぶどうかす等)
 - 液肥利用推進とめぐりんブランドの確立(米や野菜等)
- 遊休農地・耕作放棄地活用推進事業
 - 遊休農地や耕作放棄地を活用した米や野菜、果樹等の栽培
 - 温室効果ガス(CO₂)削減栽培の実践
 - 農業体験や観光農園の企画実施
- 持続可能な地域農業の確立及び移住促進
 - 南三陸の農地活用方法の検討企画
 - 新規就農者や移住者の農業PR



協力隊(脱炭素推進委員)のこれまでの取組み

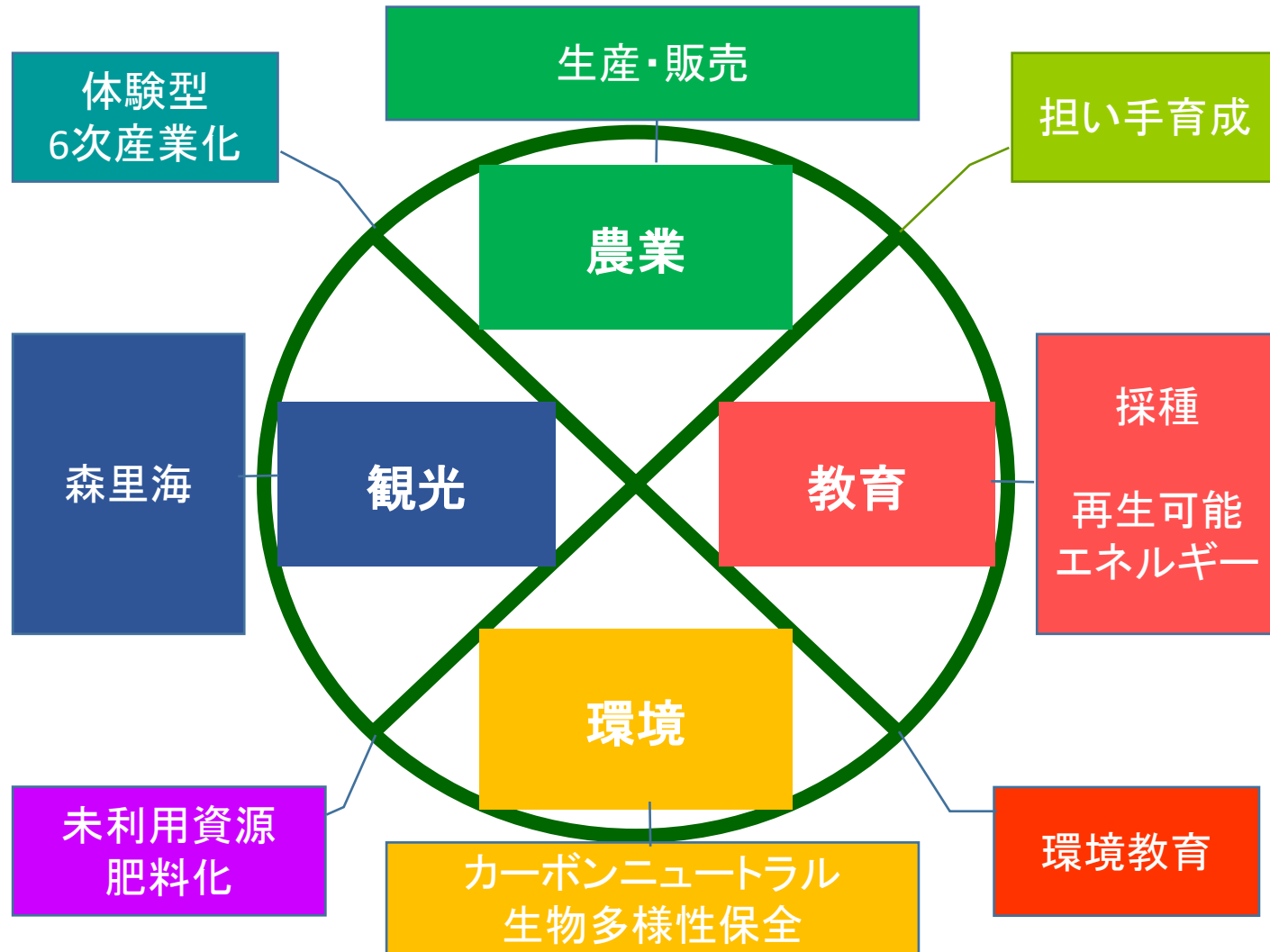
- 脱炭素推進
 - 温室効果ガス測定のための手法調査及び排出量算定
 - カーボンニュートラルを目指すための温室効果ガス吸収方法等調査
- カーボンニュートラルを目指す営農・教育事業
 - バイオ炭施用による稲作への影響効果検証
 - 脱炭素関係視察の受け入れ
 - 果樹剪定枝を用いたバイオ炭製造体験の企画実施
- 新たな付加価値創出
 - カーボンニュートラル及びネイチャーポジティブを組み合わせた農法の模索
 - 自然共生サイトへの追加登録



「食」と「エネルギー」の循環



事業展開分野



これからの取組み

- めぐりん米イノベーション事業

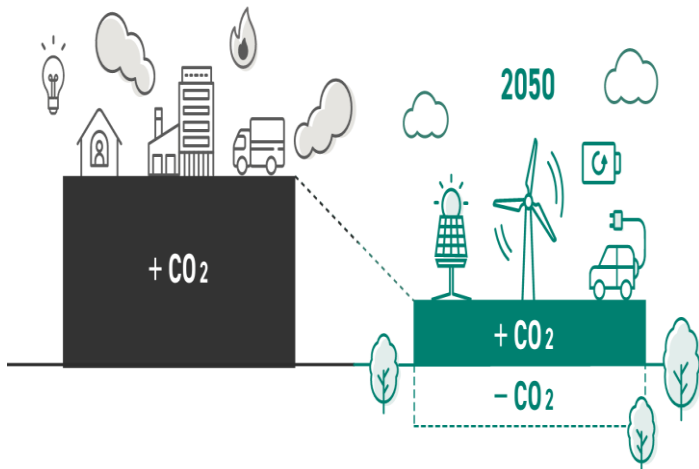
- 液肥を活用した栽培(めぐりん米)の省力化
- 耕作放棄地や遊休農地を活用した節水稻作栽培の仕組みづくり
- 6次産業化による地域生産物の販路拡大・交流人口増・担い手育成

- フルーツリズム事業

- 耕作放棄地・遊休農地活用による果樹観光体験のパッケージ化
- スイーツ協会・果樹部会の果樹種類増及び生産量増による地域所得向上
- 南三陸フルーツPR及び情報発信によるファンづくり及び交流人口拡大

- 持続可能な地域循環体制の確立

- 南三陸独自の「循環×BIO液肥×脱炭素×生物多様性保全」農業の確立
- 産学官民連携による環境・経済が両立できる持続可能な地域の仕組みづくり
- 地域農業の付加価値創出とそれに伴う所得向上対策や地域価値の創造



3年後のビジョン

- ・ 南三陸町のBIO液肥活用による省力、低コストで栽培する**持続可能な稲作**を目指す
- ・ 離農や高齢化等による**農地の遊休農地化や耕作放棄地化を防止**する
- ・ めぐりん米の6次産業化に取り組み、新たな地域名物創造により**地域**
- ・ **農業全体の所得向上及び交流人口の増加**に寄与する
- ・ 畑地や牧草地でも稲作ができる技術開発・研究を行う

将来的な運営体制

- ・ 前向きかつ主体的に取り組む人材と共働し、町内外の関係者と連携しながら、ビジョンに向けて事業継続していく。
- ・ 協力隊任期中にめぐりん米の多角的な栽培方法を試験し、地域の遊休農地や耕作放棄地を出さない仕組みづくりに取り組み、**持続可能なめぐりん米生産体制を構築**する。
- ・ 地元農家、農業委員会、農林水産課、県普及センターなどの団体及び個人と連携しながら、**中山間地農業のモデルづくり**を目指す。

事業の将来展望(めぐりん米イノベーション)

